

第 11-1 号

耕 人

『耕人塾』

塾長 木村 民男

令和4年5月21日(土)

第 11 期 『耕人塾』 で目指しているもの

昨年度で『耕人塾』設立以来 10 年が経過しました。ここまで継続できたのも多くの方々のご理解とご支援のお陰と心から感謝しています。ここ 2, 3 年はコロナ禍のため活動を縮小せざるを得ませんでした。コロナの感染拡大も落ち着きつつありますので、今年度は予防に万全を期しながら、充実した活動になるよう工夫したいと考えています。第 11 期『耕人塾』もこれまでの方針を踏襲しますので、趣旨やテーマ等について確認したいと思います。

趣旨は「石巻地域の中・高校生の『人間力』を磨き、地域社会に貢献する人材を育成し、併せて大学生や市民の学びの場にする」、テーマは「世界に誇れる石巻地域にしよう～発信！未来へ～」、実践事項は「あいさつ・清掃・ゴミ拾い+1 (プラスワン)」で、これまでと同じです。

『耕人塾』では「人間力」を「徳・体・知」ととらえ、徳を養い、心体を鍛え、知を高めるとしています。『耕人塾』での学びや活動を通して「人間力」を磨き、その「人間力」を「利他の心」で実践していくことが「地域社会への貢献」に繋がると考えています。

テーマである「世界に誇れる」については、東日本大震災から 11 年が経過し、道路や河川などの物的復興はかなり進んでいますが、心の復興はこれからが大切だと考えています。『耕人塾』の塾生である皆さんが「人間力」を磨き、実践活動を通して他団体や市民と連携し、地域社会への貢献活動をすることによって、故郷を愛する輪が広がり、住民相互の温かな交流や自然を大切にする実践が「世界に誇れる石巻地域」に繋がると考えています。

実践活動の「あいさつ・清掃・ゴミ拾い+1」については、全体での活動も継続していきませんが、個人での取り組みをさらに推進するために、実践内容の継続的な記録や話し合い活動を取り入れ、相互に切磋琢磨することによって、充実した実践に繋がりたいと思っています。

活動のコンセプト（基本的な考え方）は「主体・楽しさ・創造」ですが、塾生の主体性や創造性を生かし、さらに楽しい活動にしていくために、塾生の考えも取り入れながら、継続して取り組める活動を企画しています。

コロナ禍への対策については昨年度までの経験を活かして万全を期すとともに、実施については中止や延期も含めて柔軟に対応していきます。今年度も石巻専修大学、宮城県教育委員会、石巻市・東松島市・女川町教育委員会、河北新報社、石巻日日新聞、三陸河北新報社（石巻かほく）、ラジオ石巻 FM76.4 の後援をいただき、地域の方々と共に「世界に誇れる石巻地域」への大きなうねりを起こしていきたいと思っています。

「根を養う」（教育者東井義雄 1912 年～1991 年）

昭和の偉大な教育者である東井義雄氏は「根を養えば樹は自ら育つ」という信念で小学校教育に当たり、ペスタロッチ教育者賞を受賞した方です。東井先生は「高く伸びようとするには、まずしっかり根を張らねばならない。基礎となる努力をしないと、強い風や雪の重みに負けてたおれてしまう」とも言っています。「根」とは「人間力」を磨くことです。そのためには「徳を養い、知を高め、心と体を鍛える必要があります。その中でも土台になるのは「徳」であり、「徳」を養うために『耕人塾』では「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」を実践しています。「あいさつ」は自他の尊重です。心に届くあいさつをすることで、自分も他人も大切にすることに繋がります。「清掃」は感謝です。自分の周りに対する感謝の心を形に表すことで心も磨かれます。「ゴミ拾い」は奉仕です。自分が生きているということは多くの人や物に支えられているわけですから、他のために自分ができていることをやることは当たり前のことです。人間としての「根」である「人間力」を磨くため、『耕人塾』で多くのことに挑戦してみてください。